

天津大野木マイツニューズレター

11月号

2006年11月21日 担当：安達

適正な実地棚卸を行うためのポイント！

年度末決算に向けた準備を始めなければならない時期になって来ました。会社の決算作業は財務担当者だけの仕事と思われがちですが、年度決算作業のうち全社的に行う作業として実地棚卸があります。

実地棚卸は、棚卸資産の在庫を一つ一つ数えて数量を把握することです。この実地棚卸は決算手続きにおいてとても重要な作業の一つです。

そこで、今回は実地棚卸の重要性及び実施するうえでのポイントを解説いたします。

1. 実地棚卸の重要性

実地棚卸は、帳簿上計上されている棚卸資産について決算期末における実在性を立証する重要な手続きです。

実地棚卸が適正にされていないため誤った数量を計上した場合には、直接利益に影響を及ぼします。(在庫過小計上 売上原価増加 利益減少、在庫過大計上 売上原価減少 利益過大)

また、実地棚卸を行う際に棚卸資産の管理状況や棚卸資産の保管状態を把握することにより、棚卸資産管理業務の改善や棚卸資産の評価に関する情報を得ることができますし、時には不正発見のきっかけにもなります。

上記のように、**年度の適正な利益を把握するためにも、管理状態を把握し改善に役立てるためにも、期末実地棚卸は会社にとって重要な業務**となります。

2. 適正な実地棚卸を行うためのポイント

適正な実地棚卸を行うためには、事前準備を徹底し、実地棚卸の実施は効率よく網羅的に行われなければなりません。

適正な実地棚卸を行うためのポイントを以下にご紹介いたします。

(1) 事前準備

実地棚卸を行う前に、棚卸計画、棚卸実施要領、棚卸マニュアル等を作成し、計画的に実施しかつ統一したルールに基づき行えるようにします。また、人員の配置、責任者を明確にし、各人の棚卸作業の範囲を明確にしておく必要があります。実地棚卸を行う従業員には、実地棚卸の意味と重要性をよく理解してもらい、マニュアルに沿って確実に実行するよう徹底して指導する必要があります。

棚卸を行う前に、実地棚卸を効率的にかつ確実に行えるようにするために在庫品を整理整頓します。

(2) 棚卸実施時の注意点

棚卸原票(又は棚札)への記入はインクペンを使用し、訂正には検印を押印し、書き損じも含め全てを回収する。

棚卸原票は多めに用意し、1品目ごとに使用する。(複数の品目を一つの原票にまとめない。)

棚卸原票には連番を付しておき、回収後全ての原票が回収されているか連番チェックを行う。

数量カウントは可能な限り2回行い、2回目は担当者を代えて行う。

全ての在庫に棚卸原票が添付されていることを確認した後、原票の半券(2枚複写の場合には1枚)を回収。

在庫に添付されている半券(複写)は、実地棚卸差異の原因が判明するまでは取り外してはならない。

他社の倉庫等に預けている預け在庫は、棚卸日の在庫証明書を手入する。

棚卸実施時の入出庫は原則行わない。やむを得ず行う場合には、厳格に入出庫の記録管理を行う。
帳簿棚卸数量と実地棚卸数量との差異について調査を行う。
在庫保管場所が複数ある場合には、可能な限り同時的に行う。

3.まとめ

中国の会計実務では、この実地棚卸が重要視されておらず、実地棚卸が適切に行われていないために、実際の棚卸数量が把握できていないケースをよく見受けます。特に、ココ中国では日本に比べ不正や盗難リスクが高いため、定期的な実数把握はとても重要です。

とはいえ、上記のポイントを全て満たす実地棚卸を実施するのはかなり大変です。

まずは、現地従業員に棚卸の重要性と目的を十分理解頂き、年一回の大イベント(もちろん数回できればなおよいです。)として全社的に取り組み、徐々に精度を高めていくようにしてみてもはいかがでしょうか？

(完)